



燕石種
夢乃浮橋

四輯

貳下

100
679
99



679
33

燕石十種第四輯卷二

夢乃夏橋下卷



靈巖島長濟町二丁目小八店多葉粉屋忠を清ある者なり其妻の
丹心いざあはれ三十をうりあて日蓮宗の信者なり堀の角にもあはれ
月毎に信を託をもてりけ者の妹成る人の妻とありて谷中
ふ有けりは日蓮川に傳りたり見んその所のとよりふあはれとあて
いひのりてありけり心もさうち十をふらしてありけり金
あてあはれも其妻小童とめれりけりは成りて是も深川にまう
とていざあはれと信を託して心せうとて妹の事もちとせんともあひ
必折付りて妹ありて家よあはれいなるをわくつれあきふまひ
せうせうとてうらみのあはれとあゆむとあはれ永代橋屋と
てわめれりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
とあはれまのけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

ふそりまのうせつれども夜より落る人のあふあゆる不慮をか
うありふりして家刀自おひびらうをそむかあるひより
とく降くさふかき人走らせをらひのねまよりそりりのをさう
りあえり姉わかれて橋のさかふ有て事なく帰らすみそ
あうあう釣ふそむ姉をあつれまふふぬく

一東と船と所金車馬門店市五布あるあり降か寺の身越の祖師は開張の
あり山宿あり茶店をまうけ船とゆてありそ母は船をりてゆ
あとうり十ありる中此富屋といふの母のあはれあつひゆあう
らもゆきて橋の落りりる先のうけて橋板よぶをわけて落か
るもこの人の羽織の裾ふ五有て今もそ落りまはあをそ人眼を
いらげそをあせと叱るふせいともあそりしこそそをむせせ
すうしそ落りてゆ初ふこそ母こそあこの欄干のゆふ身をわりて
正月に半身水りつりしんどもそをそあはゆりそ落れまてせりの

女れらういむの胸の色にゆりて命をすり親子不をこにゆてあし
一塙所の与市の二人のそをつれてそ身もありの勢を固福りりゆりり死
深川よそりて福りり通滞の事をいり家よりりりて休足せんとして
ゆりて二人は死せり紫れがりにゆて死すりりのは三人斗とも
与市のゆれまうゆゆ一帯ふ青物商賣あふささりのぬきまは
殊を羅りて事致らん珍弟の時青あをて殊を賣のあはれゆれゆれ
あはれゆれと乳の時ゆふあはれゆれ包たねが半葉をこをうりてゆ
らあゆれゆれゆゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆ
あゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

右三條

靈巖漁町の伝吾友軒の記

一四谷塩河三丁月夜多宿店保助あき者あり二八をうりて娘を人をつれ十
八の多りの採らんとして深川にゆりり又ゆき百本紫見んとするの娘を

つゞけんと娘より引きのりていさむと云ひていさむゆに富と
 多しん伊脚りて去るが家より見て来りし當もどよとていとど
 出づるを橋より落して死しぬ娘も亦日をさうとていきとりの
 あり娘も神佛ふすけれととき申ありて父
 をうらひも又後継の事と人といひあり
四谷塚町の伝
 相傳氏の伝
 一芝切通りの羊をあきふ者あり村人姓名を人の娘をつれ宗見
 けりて橋より落して死しぬ妻一人家は有るもやぶて市人の願より
 彼人のあきとてをさむるべしとのちをいつとてをゆて烈氣の
 とくあきかあつて家もやぶるの妻常々烈氣のとき者
 あれがあきとてを引ぬるんおといふと自ら命を失ひて其時
 もさうとせずとてその妻を先連したるありとてゆきとてその
 むとの妻娘とも取代橋より落ちて死しぬわが死あれは引
 ぬけてもとてさうとてかきむすかきかきとてあきとてむすといふ

妻やうまの死せる者いふとあるもさうとて引ぬてあつて其
 らんといふとくばたのさうとてをさむるなりとて家もどよとてつれ
 ありの者の家のゆけをもやぶの妻死骸を見て烈氣のときありとて
 の死骸ふいづきとて一人の娘をわくあるの橋死をさせとて妻ゆき
 さんず今生一むすかきとてこのちありとて夫の股ふらふい甘んとて
 ば家もさうとて兼取妻をさむるなりとてあんばいといふかを後継
四谷塚町の伝

右二條 四谷塚賀町の経甘願齋の記

一八月十九日早稲ふ小童を人取代橋を渡りあぐらに橋後落るると
 いひて二とん性身走けるゆに橋番人走出るる事ありありのあり
 とて棒りて逃るるひつとふりつとていさむる方を見うらひとて
 一幸郷より自伊勢を去る橋といふ者娘も子供と四人とて見え玉取代橋
 くのらうと水の中を流るるがいうる事ありとて四人といふは怪家

づもちくまゆり〜めり〜〜日次神佛を信ぜ〜人ごと思れ
くも

一今川橋の便とて〜水茶屋の亭主常ふまはる浄言とて齋坊主か
り〜つらひさの〜永代橋とて七罪斗なる女子なる竹笠よまづりて
流きゆを〜をけき〜〜この者なるあや〜事あり〜とて
〜りきさそ又小傳馬何と感念を流言何〜も齋旦那あるが浄言何
〜びや〜も思々〜何亭主のわ〜り〜ら〜は〜の娘も水〜流〜んとたか
〜竹笠よまづりて流〜お〜人〜と〜す〜け〜ら〜か〜命を捨
〜り〜人〜い〜づ〜め人ある〜謝〜多〜あり〜も〜あり〜と〜るお〜う〜なれ〜が
名も不もあざり〜と〜流〜を〜す〜それ〜今川橋の便とて水茶屋の
亭主なりとて〜〜〜ふ〜と〜よろ〜こび〜て〜い〜ま〜ぎ〜山〜吹〜い〜り〜て〜報命の恩
を謝〜〜と〜浄言坊か〜り〜〜〜〜平があら〜人のおか〜りあり

一芝山西邊岳の駕かきたる茶持の男水申〜入〜和死と持の者
か駕の座も不そと〜の隠居をも〜すけゆり〜〜塵ぶら〜と〜合子ま〜
り〜い〜〜和死〜〜〜持の妻あれをゆ〜と〜山娘をり〜つれ〜西〜
〜ゆ〜と〜や〜い〜あ〜持の者〜合子ま〜つ〜う〜た〜い〜〜〜〜あ〜親子ま〜
〜り〜れ〜也〜あ〜持の者〜命の急あ〜た〜い〜は〜ま〜お〜ら〜ら〜い〜妻のま〜も〜養〜ぶ〜
〜あ〜い〜今〜より〜誰あ〜つ〜〜書ひ〜れ〜れ〜も〜あ〜〜家主い〜ら〜つ〜な〜る〜但〜ふ
〜と〜〜と〜あ〜〜さ〜ゆ〜く〜産〜り〜い〜〜と〜ゆ〜命を失〜ふ〜れ〜い〜是〜娘〜も〜あ〜親子ま〜
〜と〜ぐ〜ら〜み〜あ〜つ〜れ〜と〜あ〜け〜き〜〜と〜ゆ〜〜〜が〜後〜い〜ら〜る〜成〜らん

一四市千魚尾尾清右衛門とて人橋より流〜る〜時南を〜ん〜流〜つ〜ら〜と〜是〜時
を〜し〜て〜身をち〜ぢめ水申〜流〜〜時水底く〜是のつ〜ま〜ら〜つ〜ま〜ら〜ふ〜と〜と〜
〜流〜た〜れ〜ば〜す〜ら〜い〜と〜水〜と〜ゆ〜〜と〜常〜ゆ〜あ〜つ〜り〜し〜竹〜ふ〜た〜つ〜た〜れ〜ば〜所〜行〜を〜
〜と〜て〜あ〜を〜い〜ま〜け〜〜人〜を〜見〜れ〜ば〜日〜次〜より〜出〜ま〜た〜れ〜る〜顔〜あり〜し〜と〜信
右衛門也の物語りあり〜〜〜平が懸念の人の流り〜と
一大川端筑前屋新又ま清方〜と〜子〜速〜と〜を〜け〜取〜を〜ゆ〜〜と〜茶持家根屋の娘

其人を助多又ち事斗ふある男子一人をすすくは男の子引とる時いふは
けいをおび居るものを見くくづいことあつみと者りりは男子
つづ方の者ぬやと木をゆけたを横田といひさるる山屋ぬらつといふこと
ゆがあらぬおろさぬの名い何ととぶ九助といひおろさぬつときけは依金
よりまりしといふ衣櫃を出して見をば申すて殿極の内紋いづれぞと
とび殿ふわき見て是が殿極の内紋ありといふをらんれば丸の内紋
もろろあらばさその依金若戻あくと推量しわやを所石橋ふき橋の
右の内紋ぬらぬぬあらぬ事も有べしと急き返す橋ふらしを
ふればる代長ま備といふ者も速まりてわの男の子を見て描はる九助極
の内子息とて堀田屋の内紋申す相違あらぬわい後をすべしとて
あれをいふ横田の内紋ぬらぬ送り届しとあり
一河波も縁内家事とて煙き没勤も者若戻の病氣もそも病ありとてふ
らつては人の親父家事とびて國元の病氣見思ふまり遠國よりまりし

父ふくくもて逢て嫁しと思ひしや程なく金快ありし親子を産
よろこひ父いりもや河波にまらんとせしは深川のあり見て帰り
ぬといは若者父ふをぬ十九日水代橋を渡りし時橋を踏んで死を是を
ゆめて若者大驚きぬとて父を糸見物ぬわくぬまの横死を
とげぬいしと替うあしとれとて粗末のとくふあぢきとあゆりしや
嫁の病氣再発しては若者も死せしとぞいとありぬ事ありし
一十九日朝神樂の神酒をゆつた時代僧の鼻より血おびふしとて
一深川水代寺湯徳園満寺の御室の末ありしは秋山宗法親王のまきを
まひて十九日水代寺の當りふわつししみもたてぬおれをひしと
今日の出事もおまふりしととらる人といふ
一何所ぬありよ出さる縁りりのや龍神を申すて此のよは纏の付
るをかづりしとて水申し屋をあきつて屋のまはらるしとてまらぬ
の纏水とてしとてゆくやとてわらふ時ありぬとてわし一真

あつてきつと見えてくる人の傍りつゝつゝあつて死すの月も
有下

一永代橋あるは一間四面の焼香場古建置敷とも八宗の増信寺あり浄經
念佛或いは船も川施賑鬼出たり溝中ありてそれを受ふ又志し
ある者の強服或いはがし解ある握り飯をど黠受持あり施をりあま
りりてある者年増徳女おびつゝ建つり九月十日に右年増徳女不殘飯
拂り給付後されしとあり

右十条

文室亭の記

一御觸書く字

當月十九日深川八幡多敷れり而永代橋換不也未あり樹公との多敷り
中より入煙我人より去る多あり申右有煙き町家より右より
取片有れ致難休存命そり取らるる瘡治の當り此届難休者有
りり町家人其油の在札金をとりて町家の札をとり當り此の當り此の

右の御觸書く字

卯八月

一 右の御觸書く字
家族より内水死いりしは
多目三費文

但家人のいりし人三費文の在橋の積り

右の御觸書く字
家族より内水死いりしは
多目三費文

但家人のいりし人三費文の在橋の積り

但家人のいりし人三費文の在橋の積り

八月十九日永代橋換不也未あり樹公との多敷り
そより町家より内水死いりしは
多目三費文

以令五拾四と五分銀部分三たき重九毛
人敷五拾六人
口敷二十六口
但
後六ノ八百と五分

内
 う稼當人水死 拾八人
 月 怪我 五人
 家族之内水死 即拾三人
 日 怪我 拾人
 右へ通内座の
 一 永代橋損之居の節水死いりし門取人の口は後いとの并川取返りの後
 右果の姓名

松平薩摩守中間

合八
卯三十五番

尾張殿同心

松平利右衛門
卯四十四番

水野長之助
卯五十番

紀伊殿中呂

要助
卯二十三番

佐竹右京右衛門家来

早川金七郎将

早川八五郎
卯十番

田 家来

田代右衛門小者

官右
卯二十八番

南羽左衛門尉家来

松田松三郎
卯二十一文

松平政千代家来

遠友助左衛門
卯十九文

岡家来

布施舍人若黨

佐友

見花

卯三十六

松平河波中同

宇吉清

卯二十六

中多中終中家来

去園

一也

卯二十九

松平永之進家来

中村文左衛門妻

心

卯二十九

松平右京亮家来

山中

專花

卯二十三

九鬼或於中

久助

卯二十五

卯二十三

寡合

長谷川乙之丞家来

生田清光清

卯六十六

小笠原惟康家来

加友源花

卯二十九

松平丹波家来

酒井兼右衛門

卯二十三

日中

友右衛門

卯四十八

尾形英儀家来

三田表吉清

卯三十八

古田京山家来

松平源助

卯三十八

英薛宗
市谷陸月寺不化

狭
卯十九女

芝合松阿安樂寺知不

隆
卯十九女

小松阿好脚店
町醫

養
卯四十二女

淺草荒川庄町

小
卯三十九女

下総國郡必知國多村
百姓屋名傳娘

二
卯二十七女

桶町三丁目

久次
卯九女

長次郎
卯五十三女

仁
卯三十九女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

和
卯三十一女

南八丁堀 三丁目
忠 虎
卯二十五日

小石川 戸崎町 家臣
新堀人 高和 卯子
富久布
卯三十一日

麻布 中村町
忠七店
平右衛門
卯三十一日

水谷町 二丁目
長尾店
友 八
卯三十一日

中根町 三丁目
忠茂店
金 虎
卯三十一日

新町 三丁目
卯子布店
仙十布
卯三十一日

赤坂新町 三丁目
信長店 高堀人 高
友 吉
卯三十一日

須吉町 裏川 堀
信長店 卯子
信 助
卯三十一日

通油町
八尾店 卯子
信 五布
卯三十一日

後醍醐十軒町
卯子 卯子
猪次布
卯三十一日

本町 四丁目 三丁目
卯子 卯子
新右衛門
卯三十一日

神田明神下西町
辰次布店
半 虎
卯三十一日

南田庄町二月
海左衛門后

庄 茂
卯二十

伊勢町
与脚后

文七后居

森右衛門
卯三十

三浦市切村町

宗家后居
日人后身

忠 助
卯二十

岡町家
日人后身

三 吉
卯二十

山形町
吉三后居

久吉坊
卯三十

日人后

政 吉
卯二十

南船橋町二月
宗家后居

觀 月
卯七

下谷祐泉寺町

宗家后居
日人后

伊 助
卯二十

新井町
又吉后居

茂右衛門
卯二十

芝新門町

宗家后居
忠三后居

小傳馬町

吉三后居
宗家后居

浅草寺念寺町

佐平后居
宗家后居

卯十八

永沃町

仁多商店

不

七

本ヶ塚二丁目

肥後商店

毛

光

系橋水管町

勘多商店

多

川

日人石仕

三

布

芝西應寺町

平七商店

七

七

靈岸橋

波多商店

市

五

雛子町

嘉

助

南傳馬町

波多商店

伊

助

日

吉

五

濱草西仲町

傳八商店

為

次

揚屋町

辰多商店

久

米

品川町裏河原

安之浦店通三軒

卯二十八年

上栢町

安之浦店長吉屋在

卯二十八年

神田久右衛門町通三軒

安之浦店長知喜屋在

卯二十八年

目黒松平町通三軒

安之浦店長八右衛門

卯二十八年

本石町十軒店

安之浦店長九右衛門

卯二十八年

西河原町平左衛門店

安之浦店長久右衛門

卯二十八年

小田原

安之浦店長

卯二十八年

麻布田島町

安之浦店

卯二十八年

中野町

安之浦店

卯二十八年

下栢町

安之浦店

卯二十八年

目黒

安之浦店

卯二十八年

麻布山崎町

安之浦店

卯二十八年

目黒

安之浦店

卯二十八年

改十席

安之浦店

卯二十八年

南小田原町 寺子目

夏衣布店 市子目

和 卯二十

吳岸 鹽町

長石 湯店

与 市 卯二十八

赤坂 裏傳馬町 寺子目

子立 布店

名 次 布 卯十四

条 次 布 卯九

角 次 布 卯十

麻布 谷町

家子

戸 七 卯二十五

南小田原町 寺子目

家子 傳馬店

傳 八 卯十四

芝片 門前町 寺子目

家子 傳馬店

長 次 布 卯十

龜崎 町 仁多傳店

祐 益 卯十

中根 本町 寺子目

大脚 店 虎右衛門 寺子

久 五 布 卯十八

小島 町

物三 布 店 寺子目

子 松 卯十二

中石 町 十軒町

家子

久 五 布 卯四十五

横山町三丁目

久右衛門

次

卯四十五

若川町二丁目

常庵店林

利

卯二十五

麹町十三丁目

伊左衛門

熊

卯十八

深川町大橋町

吉市多衛門

長

卯六十七

新番物町

為七右衛門

助

卯二十五

右左衛門

長

卯四十五

上総國天羽郡鵜渡町

百姓

孫

卯二十八

日

孫

卯四十八

岡島町

伊左衛門

若

卯二十三

神田富山町二丁目

改次郎

助

卯二十九

芝白三丁目

伊左衛門

久

卯三十七

同人

久

卯四十四

元岩井町 孫八店

長吉備 卯四十二

坂中町 二丁目 信左衛門店

定五郎 卯十五

恒吉町 信右衛門店

作次郎 卯二十

安五郎 卯十

栄次郎 卯八

幸不柳原 五丁目 辰八店

謙吉 卯三十八

神田富山町 三丁目 信三郎店

久花 卯二十七

四谷塩町 三丁目 信三郎店

伊助 卯五十九

南船場町 二丁目 十左衛門店

熱助 卯二十一

南船場町 七左衛門店

勝五郎 卯四十七

同人牌

新五郎町 三丁目 辰左衛門店

平八 卯七十九

信後園郡 不知名村

新吉郎 卯十七

若尾町 辰左衛門店

市次郎 卯十九

基石高井子

武列邑之郡千位宿三丁目

中寄宿名伊那井

仙 五
卯二十五

園列在系郡赤木森村

園人牌

三市五宿
卯四十七
卯二十五

弓町清次市店
安五市見

辰五宿
卯四十

小石川十留垣町清次市店

善人市百位

原 次
卯十七

園店半五宿方二居

半 平
卯六十五

園店

又 七
卯四十七

園人娘

よ し
卯五

琳人改善七丁目

小徳馬町一丁目川原

山登改七五宿抱琳人

利 五宿
卯三十一

右人数高百三拾人

引取帰りの後相果の者

吳屋島塩町又有島店

佐七娘

い 五
卯六

加 了
卯三

右人教高拾五人

通三町目

五人組持店

五市信

卯十二

辰倉片町家之信吉娘

卯十三

卯十一

卯五十七

本機町五丁目新之信店

吉之信強

卯三

神田小泉町源吉店

長之信時

卯十三

堀江町三丁目家之信吉店
甲列郡昌郡郡内願三谷村

卯三十五

麹町十三丁目店之信店

長之信時

卯二十

南橋町若之信店

信吉娘

卯五

吳岸島堤町長之信店

五市信

卯六

芝小新門若町久之信店

卯五十五

常盤町新之信店

安之信時

卯十一

卯十一

右ノ人数モ町方檢使を更ハ多クあり十九日夜八時までハ檢使ありし
 番付より引取ル者ハ後ハ由夜より入テ惣敵ども偽名を以テ引取衣類
 等を奪ひしやうあり風説有クモ檢檢使より姓名を改ムル候人數
 之風説ありしやう同一候あり候中ハ終死する者たぬや
 一 十九日又永代橋邊より死骸のれ其の番付を見しハ百九十番と有る
 一 一説
 存命 三百四十人
 溺死 四百四十人
 助ケ船 百四十四艘
 助ケ人数 七百四十九人
 右町奉行より御老中へ由届之旨と有る未詳
 永代橋水死人七百三十二人

四

武士八十六人
 女 百五人

町人四百二十二人
 子供男女七十五人

才死才生者 二百人
 死骸引取人々者 十一人
 腰物取残一 二百三十六腰
 外九百三十七人 外九百三十人程死骸多ク分

一 八月廿日昼時町奉行より由届書を見しハ此ハ書付の
 三百九十一人

八月十九日より廿日自ら由届五百二人

一 一説小形死二百十九人
 八月廿日檢檢使後ハ分
 八月十九日川取ハ分

此ハ細島より引取ル者も少くハ二三百まで羽田沖又ハ角田川由堀色より

死骸浮とりし由

深川多初番

龍宮貝鯛の由

吳岩橋

靈巖寺門石町

寺番

神功皇后の由

海老大工町

船工道具の引物

床島かか火石の由

清徑町

鳥不夜の引物

伝く本四節の由

依賀町

頼朝の引物

千羽鶴の引物

依賀町附あり

日除踊巻

寺廻

草摺引

四番

戸隠人形の由

相川町

花籠の引物

五番

岩大鯛蛸子の由

熊井町

六番

蓬菜心の由

富す町

三方盆の引物

七番

武花野牡丹桜の由

旅町

八番

立桜御車の由

大鴻町

巻大相の引物桜の採籬の婆

ま中一乃五人

大津繪巻屋の由

中島町

福祿壽の改を利す引物

一 ^{十番} 虎ニ初夜月の出

北川町

一 ^{十番} 武内宿禰の出

星加町

神功皇后花籠の引物

一 ^{十二番} 龍神の出

蛤町

船からを船の引物

一 ^{十三番} けやきの出

本郷町
平野町

附多り
大神樂

一 ^{十番} 馬糸人形の出

了兼町二丁目
同 二丁目
富久町
元本郷

大井の引物

子孫子孫乃勢

一 ^{十番} 武内宿禰の出

北新堀町

松竹梅造物

一 ^日 松より兜小出し

箱崎町一丁目

一 ^日 兼岩紐小出し

同 二丁目

一 ^二 神功皇后小出し

大川堀町

龍神造物

一 岩に鶴出

銀町寺丁目

一 梅に神鏡小出し

同 二丁目

東市人形造物

一 多居四頼朝の出し

四日市町

多義九鶴造也

一 仁田五四糸出

塩町

岩細六桂造也

一 梶原六左出

濱町

赤七鹿造也

一 天七の岩戸七隠人形出

南新堀二丁目

鹿八表鶴造也

一 幣八鈴小出

同 二丁目

一 岩八頼義出

長崎町二丁目

一 鶴九ヶ岡ノ系小出

同 二丁目

一 狸九兜小出

呉岸碓町

一 熊九坂長靴出

东湊町二丁目

松一〇二月造也

一 舟一〇鯨出

东湊町一丁目

一 松梅一〇千両箱出

川口町

宝造也

呉岸碓町惣町ノ出山附系

一 日除一〇涌巻

喜細

紅葉物

踊子 二人

さやしり十三人

吳府島塩町

文右島店

信齋

佐七妻

由きり

由きりといふ人の娘は水死の舟に檢使をよこし細川尋也の所へ十九日直江の所へ
おきた娘といふと申す娘を連三とて相成ひかゝるといふ娘をいふと深川八幡宮に
見物に召致すといふ永代橋を渡りぬ所大勢群集のきり右橋の所へ舟に
難き御り候りといふ御倒抱きの娘を扱ひといふ其見物といふ舟周章
立居り右の娘といふ申す相成り者右一同右川中捜ひぬとある見物とい
舟連歸り候に候減治宗政といふ所も兄弟届相果といふ所書といふ所
金持といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所
寺の所といふ所

水死人

い 卯 吉
か 卯 三 才

檢使加茂左左衛門

三井才左衛門

吳府島塩町長右衛門店

八百石

与市妻

すてり

松将平次郎 吉六 申す 初年者水死といふといふ舟に檢使をよこし始末の所
此所の所へ九日深川八幡宮に檢使有ると右氏子といふ所町内にも連三とて
名をいふといふ子供右備中といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所
所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所
安右衛門といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所
安右衛門といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所といふ所

九軒可代他家之仇九傷之方上成爲告知の如く是日五五時之仇九傷
 平次郎を抱きあり永代橋爲是三人在河中落の事と檢査引返一五五
 又々中吉を抱きありの事と當年去果瘡傷二面辨と云は座の保佐左
 邊抱きありの初まかゝ温る有との由身程と致介抱各各の事といふ
 此在難言所はを不のいふと事人死骸片付とて夜を願ひ以て

文化丁卯年八月廿日

水死人 平次郎
 年三十七
 市

檢使 濱邊小右衛門
 山崎大一郎

文化丁卯秋八月十九日永代橋下溺死精靈 慈
 瀟塔

關口氏先祖代々親族諸精靈等

文化丁卯秋八月十九日此日也深川八幡宮神事
 儀容服飾美麗可觀云都人士女舉群趣之永代橋
 上陝隘闐溢肩摩領接人各爭先歛尔橋壞中斷十
 間余禍出不意無地以可避後者愈進前者欲退不
 得一群墜隨大河漂流浮沈溺死不少此日何日乎
 災害何暴耶緇素日臨修佛事行法施慈瀟惟勃或
 人請予目之所視生靈非命何以堪之惻怛之情實
 不得止應建塔以福幽魂予諾之可謂下善種干寶
 地蟠根永年茲焚香持念懇祈永代橋下溺水諸靈

菟等出苦海同歸樂邦法界平等皆資法潤

皆文化四丁卯年九月

國豊山現住梵敬謹誌

設我得佛十方衆生至心信樂欲生我國乃至十念
若不生者不取正覺

南無阿彌陀佛

石塔造立主

日本橋本船町

野田屋平三郎

此光の字記と一の香花園のたきふ乃例の箋ゆめあはすきみ
照るししどやふきゆくもあしあき天の神のみと此のまをり

あやきとあしどなたるバ水代橋よりわさ後てより百せ
にもたわくあまをぬらんを水のし記ほおふか一かかんたるこまを
あまを人の伊支ほむく一ゆきまたるあといしああど
よの心算のちしれむくも水ゆくこそをそのあつらあまとあ
橋乃わあう記のあしとあああし一いよのよと邵康帝を
師一ふ文化二年八月十九日けし一あしつて一せあし一をうゆ
むをむそのしをたりバ橋むらたてぬおふたの儀をむむり
はむそ二日バくむりうどかむばのきほどりてそゆきをうをあ
ほむばりてそむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
らのあ橋をかうする人子解今のかりてをしあひむ後ハかのま儀の
りさう十倍あもこえあてしむむむむむむむむむむむむむむむ
くむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
さむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

父あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの

もはらひがあつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの
あつきのいしをまはが水はく死あんとわかれがはれまはらひの

麻布のきつねをうらぐ町ありてふ陸海師子川東馬とていふが娘十
七ふありぬらういとおかちうとをういむははらひまはらひの

うらつちつとくさあゆめうらつちつとくさあゆめうらつちつとくさあゆめ
かゝるま

たりあき事とそ永き代とらふきく袖まをもほやうらん

清候

右二条 卓率亭の記

け書い香花園大人の編集志をいを借り申るをせりりや
あまの初由とくう津一おき侍ふる人見る人回向志とくや会
佛りまうや
文宝亭

明治二十歳丁亥仲秋

筆者

妻木頼徳



